

## 主要科目の特長・科目ごとの目標等

### ○人間総合学群

#### ・人間文化学類

#### <人間関係専攻>

##### 「化粧の文化史」

人はなぜ化粧をするのか、人間にとって化粧はどのような意味を持つのかを、化粧の歴史を通じて時代の美意識をたどりながら考察を進める。とくに日本の化粧史に的を絞り、必要な場合には異文化と比較しながら授業を進める。単に化粧の歴史を知るとどまらず、受講者が自分の化粧や美に対する心構えや価値基準を反省することを目的とする。

##### 「コミュニケーションの心理学」

服装や立ち居振る舞いなどの非言語的なコミュニケーションへの理解を深めるとともに、行動心理学や学習心理学などの知見を踏まえ、言語的なコミュニケーション能力の発育形成について考察する。コミュニケーションの多様性を理解すること、自己の無意識領域に迫り「自己洞察」する方法を学ぶこと、「アサーション」「傾聴」の技法について理解を深めることなどを目標とする。

##### 「セルフプロデュース」

現在、メイクアップやファッションにおいて、自己表現を自由に楽しむ現象がうかがえる。自己演出や身体装飾の観点から、身体装飾・対人印象・印象形成・印象分析・自己認知・パーソナリティ・ビジュアルコミュニケーション・ビジュアルプレゼンテーションなど、「個」としての様々な自己演出や印象形成方法を学ぶ。

##### 「文化社会学」

日本の戦後史を文化社会的視点で捉え直し、そこから、現代の私たちの社会を問い直す。現代社会については、「消費」「格差」「グローバリゼーション」というテーマを通して、その問題を考える。戦後日本の社会史を理解すること、そこから得た知見を用いて、現代社会の抱える問題について自ら思考する力を獲得することが目標である。

##### 「現代社会総合講座」

古典的名作や、近年、話題作となった映画を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。

### 「人間関係ゼミ」

人間関係専攻の諸領域を研究するに際して、どのような理解と発想が可能なのか、各自の問題関心に即して学術的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得することを目標とする。受講者による報告とそれにもとづくディスカッションを基本形式とし、自らの問題関心を掘り下げ、「問い」を立て、情報を集めその「問い」にじっくりと考察をめぐらすといった知的営みに取り組む。最終的には学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルを高めるまでを目標とする。

### 〈学類共通科目〉

#### 「日本文化実習」

本実習は、茶道・華道等の日本を代表する伝統文化についての理解を深め、その意義を深く考察しつつ、作法や所作を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、茶道や華道の歴史に関して講義を行うとともに、実際に茶道や華道の基本的な作法を実践する機会を設けて、日本の伝統文化や日本人の美意識や自然観の特質を体系的に理解できるように導く。

#### 「プレゼンテーション実習Ⅰ」

研究発表のプレゼンテーションを念頭に置き、基本的な発表の技法を指導する。非言語的コミュニケーションの重要性、基本的な「語り」「話し方」のスキル、リサーチ情報の整理と提示の工夫、聴衆と状況に応じたプレゼンのスタイル、プレゼンテーション・ソフトの効果的な使い方、などを取り上げる。“人前で話すこと”への抵抗感を払拭し、自信をもって研究発表に臨めるようなマインドを修得させる。

#### 「チャレンジ TOEIC」

自身のスキルアップのために TOEIC に挑戦しようと考えている学生を対象とした授業である。リーディングやリスニングに必要な語彙学習や文法学習を体系的に行うと共に、リーディング・リスニング活動を十分に行うことにより両技能の向上を図る。リーディングおよびリスニング問題の出題傾向から正答を導き出すためのストラテジーを学び、問題演習を通して実践力を養う。各自目標を設定し、それに向けて学習し、目標達成を目指す。